

**情報通信審議会への新規諮問について
～新たな情報通信技術戦略の在り方～**

諮問の背景等について

1. 背景

- 総合科学技術・イノベーション会議において、科学技術の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、次期科学技術基本計画に関する検討が開始
→ ICT分野を担当する総務省としても積極的に検討に貢献
- 独立行政法人通則法の改正により、平成27年4月、情報通信研究機構(NICT)は国立研究開発法人に移行
→ 新法人制度移行のために新たな体制の整備、及び次期中長期目標に向けた検討が必要

	26年度	27年度	28年度
政府全体	第4期科学技術基本計画 (H23-27)		第5期科学技術基本計画
NICT	現行体制	国立研究開発法人	
目標:	第3期中期目標 (H23-27)		第4期中長期目標

2. 検討の方向

情通審答申 (H26年6月)

「イノベーション創出実現に向けた情報通信技術政策の在り方」を検討
→ 我が国発のイノベーションの創出を実現するための方策をとりまとめ

イノベーションのシーズを生み出すための未来への投資として、国やNICTの基礎的・基盤的な研究開発をしっかりと進めていくことが必要

情通審諮問 (H26年12月)

平成28年度からの5年間を目途とした「新たな情報通信技術戦略の在り方」を検討予定
→ 研究開発、成果展開、産学官の連携等の推進方策及び重点研究開発分野・課題をとりまとめ予定

3. 答申を受けた対応

重点研究開発分野・課題を踏まえ、平成28年度からの研究開発施策を推進するとともに、NICTの第4期中長期目標の策定に活用。併せて、総合科学技術・イノベーション会議における第5期科学技術基本計画の検討に資する。

1. 諮問理由

- 我が国が超高齢化社会を迎え、国際的な経済競争が厳しくなる中で、経済を再生し、さらに持続的に発展させていくためには、経済社会活動全般の基盤であるとともに、今後とも重要な産業であるICT分野が力強く成長し、市場と雇用を創出していく必要がある。
- このため、本年6月の情報通信審議会答申「イノベーション創出実現に向けた情報通信技術政策の在り方」に基づき、ICT分野におけるイノベーション創出の実現に向けた取組を推進しているところであるが、イノベーションのシーズを生み出すための未来への投資として、基礎的・基盤的な研究開発についても着実に推進していく必要がある。
- また、独立行政法人情報通信研究機構(NICT)は、平成27年4月から、研究開発成果の最大化を目的とした新たな「国立研究開発法人」に移行する予定であり、ICT分野における我が国の研究開発等を一層強力にリードすることにより、ICT産業の国際競争力の確保等に資することが期待されている。
- このような状況を踏まえ、ICT分野において国、NICT等が取り組むべき重点研究開発分野・課題及び研究開発、成果展開等の推進方策の検討を行い、次期科学技術基本計画、NICTの次期中長期目標の策定等に資するため、平成28年度からの5年間を目途とした新たな情報通信技術戦略の在り方について、諮問する。

2. 答申を希望する事項

- ・ ICT分野における重点研究開発分野及び重点研究開発課題
- ・ 研究開発、成果展開、産学官連携等の推進方策
- ・ その他必要と考えられる事項

3. 答申を希望する時期

平成27年7月目途

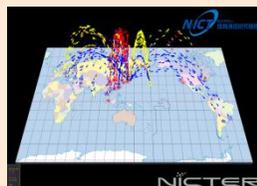
- 独立行政法人 情報通信研究機構 (NICT) はICT分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関
- 役職員数：理事長 坂内正夫 (前国立情報学研究所所長)、理事5名、監事2名、常勤職員411名
- 平成26年度予算額：281億円 所在地：小金井市 (本部)、横須賀市、神戸市、京都府精華町 (けいはんな)

I. ネットワーク基盤技術

情報量の増大、消費電力の低減等の要請に応える
安心・安全なネットワークを実現する



オール光
ネットワーク



サイバー攻撃
の解析

光通信、ワイヤレス通信、ネットワークセキュリティなどの技術の研究開発を進めることにより、環境負荷を低減し、大容量で高度な信頼性・安全性を備えた新世代ネットワークの実現を目指す。

II. ユニバーサルコミュニケーション基盤技術

様々な壁を超えて人に優しい
コミュニケーションを実現する



多言語
翻訳



超臨場感
通信

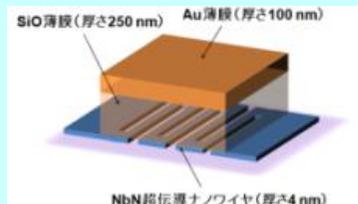
多言語翻訳、超臨場感通信などの技術の研究開発を進めることにより、言葉の壁を越えたコミュニケーションや高度な臨場感を伴う遠隔医療など、人と社会にやさしいシステムの実現を目指す。

III. 未来ICT基盤技術

未来の情報通信にパラダイムシフトをもたらす



脳情報
通信



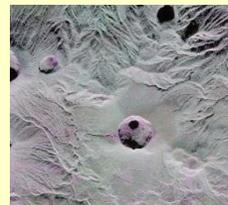
量子通信
のための
光子検出器

脳・バイオICT、ナノICT、量子ICT、超高周波ICTなどの技術の研究開発を進めることにより、未来の情報通信にパラダイムシフトをもたらす新たな情報通信概念と技術の創出を目指す。



IV. 電磁波センシング基盤技術

高精度な環境情報や時刻情報を
容易に安全に利用できるようにする



航空機搭載
合成開口
レーダーに
よる火口の
観測



フェーズドレイ
気象レーダーに
よるゲリラ豪雨の
観測

時空標準、電磁環境、電磁波センシングなどの技術の研究開発を進めることにより、災害や気候変動要因等を高精度にセンシングする技術、電磁波を安全に利用するための計測技術等の利用促進を目指す。